

35 友禪和紙 (2021年2月19日)

パリに来てまもない去年の夏、南仏にある小さな村の土産物屋で、折り紙で作られた素敵なピアスを購入しました。これを作ったのはLady Origamiさん。フランスで折り紙を使ったアクセサリー作家がいることを知って嬉しくなり、彼女に折り紙アクセサリーを作ろうと思ったきっかけを伺いました。

Lady Origamiさんは、日本を訪れたことはありませんが、偶然に友禪和紙と出会い、その色鮮やかさと絵柄の美しさに魅了されて、折り紙アクセサリー作家になりました。友禪和紙でアクセサリーの形を作って樹脂で固め、ピアス、ブレスレットやネックレスなどのアクセサリーに加工しています。



色鮮やかな絵柄の友禪和紙は、型を使っていくつもの色を重ね塗りしています。現在では、友禪和紙で使われるような絵柄を印刷した紙も友禪和紙と呼ばれています。しかし、本物の友禪和紙は、京都の職人が型を使って手作業で一色ずつ丁寧に色を染めています。



京都には、型を使って布を染める友禪染という技法があります。江戸時代の絵師であった宮崎友禪齋が描いた扇絵の人気にあやかり、その画風を着物の模様にしたことから、友禪染が生まれたと言われています。そして、友禪染のような絵柄を特徴とした紙を友禪和紙と呼んでいます。



日本の友禪作家のウェブサイト*によると、江戸時代に、庶民の贅沢を禁止する奢侈(しゃし)禁止令によって、金銀の刺繍など豪華絢爛な装飾手法を施した着物が禁止されました。しかし、友禪染は禁止された手法には該当せず、なおかつ、四季の草花などの繊細な図柄が絵画のようであったことから、華やかなものに飢えていた当時の人々の間でたちまち人気になったそうです。いつの時代でも、人間は美しいものへの憧れを持っていることを物語る歴史的なエピソードです。

* 出典：手描き友禪腰原きもの工房